

- 問1 企業が資金を調達する方法のうち、証券会社などを通じて株式や社債を発行し、投資家から直接資金を受け取る仕組みと比較した際、「間接金融」における資金の流れを説明したものと最も適切なものはどれですか。(2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 金融機関が多くの預金者から小口の資金を集め、それをまとめて企業に融資する仕組み。
 2. 企業が投資家に対して直接経営計画を説明し、その見返りとして配当金を支払う仕組み。
 3. 政府が日本銀行から直接資金を借り入れ、景気対策として市場に資金を供給する仕組み。
 4. 個人が銀行を介さずに、インターネット上のプラットフォームを利用して企業を支援する仕組み。
- 問2 銀行が主な収益を得る仕組みにおいて、預金者に対して支払う利子と、融資先から受け取る利子の関係についての説明として、最も適切なものはどれですか。(2024年 静岡公立入試 類似)
1. 融資で受け取る利子の利率を、預金に支払う利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。
 2. 預金に支払う利子の利率を、融資で受け取る利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。
 3. 預金に支払う利子と融資で受け取る利子を常に同額にし、窓口での事務手数料のみを収益とする。
 4. 利子のやり取りは行わず、政府から支給される補助金のみを銀行の運営資金とする。
- 問3 銀行などの金融機関が、家計（個人）から預かった資金を企業などに貸し出す際、受け取る利子（金利）と預金者に支払う利子の関係として、最も適切な説明はどれですか。(2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも高く設定されている。
 2. 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも低く設定されている。
 3. 貸し出す際の利子と預金者に支払う利子は、常に同額になるよう国によって指定されている。
 4. 景気が悪化したときのみ、預金者に支払う利子の方が高くなるように設定される。
- 問4 資金の出し手（個人）から金融機関（銀行）へ「預金」が流れ、そこから資金の借り手（企業）へ「貸し出し」が行われるという資金循環の形態において、銀行が果たす役割として最も適切な説明はどれですか。(2017年 岩手県公立入試 類似)
1. 証券市場を通じて、個人と企業が直接売買する場を提供する役割
 2. 個人の預金をまとめ、自らの責任で企業に資金を供給する仲介役
 3. 政府の指示に基づき、すべての企業に均等に資金を配分する役割
 4. 企業の株式を発行し、その配当金を個人に直接支払う仲介役
- 問5 物価が上がり続け、景気が過熱すぎていると判断される場合、日本銀行が行う「売りオペレーション」による影響として正しいものはどれですか。(2020年 愛媛公立入試 類似)
1. 日本銀行が銀行に国債を売ることによって、銀行の資金が減り、金利が上がることで企業の借り入れが抑制される。
 2. 日本銀行が銀行から国債を買うことで、銀行の資金が増え、金利が下がることで個人の消費が拡大する。
 3. 日本銀行が円を売って外国通貨を買うことで、円安を誘導し、日本の輸出企業の利益を増やす。
 4. 日本銀行が紙幣を大量に発行して政府に供給することで、政府の借金を肩代わりし、財政の健全化を図る。
- 問6 企業が新しい工場を建てたり、新製品を開発したりするための資金を調達する際、株式や社債を発行し、証券会社を介して家計などの投資家から直接資金を募る仕組みを何といいますか。(2022年 和歌山公立入試 類似)
1. 直接金融
 2. 間接金融
 3. 自己資金
 4. 公定歩合
- 問7 日本銀行が景気回復を目的として、民間の金融機関が保有する国債を買い入れることで、市場に流通する通貨の量を増やす政策を何といいますか。(2025年 神奈川県公立入試 類似)
1. 売りオペレーション
 2. 買いオペレーション
 3. 預金準備率操作
 4. マイナス金利解除
- 問8 日本銀行が、景気や物価の安定を図るために金融機関を相手に国債などを売出し、世の中の通貨量を調節する仕組みを何といいますか。(2016年 鳥取公立入試 類似)
1. 公開市場操作
 2. 支払準備率操作
 3. 預金保険制度
 4. 財政投融资
- 問9 企業が「直接金融」によって資金を調達しようとする際、投資家に対して発行されるものの組み合わせとして適切なものはどれか。(2022年 愛知公立入試 類似)
1. 株式と債券
 2. 預金と貯金
 3. 手形と小切手
 4. 税金と補助金
- 問10 日本の中央銀行が担う「発券銀行」としての役割について、その仕組みや内容を説明したものと最も適切なものはどれですか。(2016年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 日本国内で流通する紙幣を独占的に発行する
 2. 500円や100円などの硬貨を国の依頼を受けて製造する
 3. 国民から直接税金を徴収し、国の予算として管理する
 4. 一般の個人や企業から預金を受け入れ、資金を貸し出す
- 問11 途上国の貧困対策として行われる「マイクロクレジット」の仕組みについて、その目的や背景を説明したものと最も適切なものはどれですか。(2026年 栃木公立入試 類似)
1. 返済義務のある少額融資を行うことで、借り手の勤労意欲や経営意識を高め、持続的な自立を支援する。
 2. 発展途上国の農産物や工芸品を適正な価格で継続的に購入することで、生産者の生活水準の向上を図る。
 3. 契約後の一定期間内であれば消費者が一方的に契約を解除できる権利を認め、不当な契約から人々を守る。
 4. 最新の情報通信技術を活用して送金や決済の効率化を図り、誰もが安価に金融サービスを利用できるようにする。
- 問12 不況（景気後退）の際、日本銀行が景気回復を図るために行う金融政策として、日本銀行が一般の銀行に対してとる行動と、それによって生じる市場の変化の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2017年 岩手県公立入試 類似)
1. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を増やす。
 2. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する資金量を増やす。
 3. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を減らす。
 4. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する資金量を減らす。
- 問13 日本の中央銀行である日本銀行が果たす役割について、その業務内容を正しく説明しているものを選んでください。(2023年 奈良公立入試 類似)
1. 日本で唯一、紙幣（日本銀行券）を発行することができる「発券銀行」としての役割
 2. 家計の預金を預かったり、一般企業に対して事業資金の貸し出しを行ったりする役割
 3. 政府の指示に基づいて、毎年の国の予算案を作成し、税金の徴収を直接行う役割
 4. 輸出入の制限や関税の決定を行い、海外との貿易を直接管理する役割

答え合わせ・解説

問1	答え 1 金融機関が多くの預金者から小口の資金を集め、それをまとめて企業に融資する仕組み。	間接金融では、銀行などの金融機関が仲介者となります。個々の預金者の資金は少額でも、金融機関がそれらを膨大な量として集約することで、企業が必要とする多額の資金需要（調達）に応えることが可能になります。これに対し、企業が自ら市場から資金を集める方法は「直接金融」と呼ばれます。
問2	答え 1 融資で受け取る利子の利率を、預金に支払う利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。	銀行などの金融機関は、多くの人々から預金として資金を集め、それを必要とする企業などに貸し出します。このとき、貸し出す際の利子（貸出金利）を預金者に支払う利子（預金金利）よりも高く設定することで、その差額（利ざや）を主な利益としています。これにより、銀行は組織を維持し、預金通帳の発行や振り込みといった金融サービスを提供することができます。
問3	答え 1 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも高く設定されている。	金融機関は、預金として集めた資金を必要とする人や企業に貸し出す「間接金融」の役割を担っています。この際、貸し出す際の利子（金利）を預金者に支払う利子よりも高く設定することで、その差額を銀行の運営費用や利益としています。この仕組みによって、金融機関は持続的な経営が可能となります。
問4	答え 2 個人の預金をまとめ、自らの責任で企業に資金を供給する仲介役	間接金融において、銀行などの金融機関は「仲介者」としての役割を担います。多数の個人から集めた預金を、資金を必要とする企業へ貸し出します。この際、企業が返済不能になるリスクは銀行が負うこととなります。一方、株式などを購入する直接金融では、資金の出し手が直接リスクを負うという違いがあります。
問5	答え 1 日本銀行が銀行に国債を売ることで、銀行の資金が減り、金利が上がることで企業の借入れが抑制される。	景気が過熱し物価が高騰（インフレ）している場合、日本銀行は「売りオペレーション」を行います。銀行に国債を売って代金を回収することで、市場に出回る通貨量を減らします。銀行の貸し出し資金が不足気味になると金利が上昇し、企業や家計はお金を借りにくくなります。これにより、過剰な投資や消費が抑えられ、物価の安定につながります。なお、為替介入や紙幣の発行による借金返済は、通常の金融政策の仕組みとは異なります。
問6	答え 1 直接金融	企業が市場から直接、資金の出し手（家計など）を募る方法です。出し手は企業の将来性などを判断して株式や社債を購入します。銀行などの金融機関が預金として集めたお金を貸し出す「間接金融」と対比される用語です。
問7	答え 2 買いオペレーション	不況の際、日本銀行が市場の通貨量を増やして景気を刺激するために行う手法です。日本銀行が一般の銀行から国債を買い取り、その代金を支払うことで、銀行が企業や個人に貸し出せる資金を増やします。この一連の動きにより、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が拡大します。
問8	答え 1 公開市場操作	日本銀行が市場を通じて国債などを売買し、通貨量をコントロールする政策を公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）と呼びます。これは現在の日本における金融政策の中心的な手段です。景気が過熱しているときは国債を売って通貨を回収し（売りオペレーション）、不況のときは国債を買って通貨を供給する（買いオペレーション）ことで、物価と景気の安定を目指します。
問9	答え 1 株式と債券	直接金融の具体的な手段として、企業は出資の証となる「株式」や、借入金の証となる「債券（社債）」を発行します。投資家はこれらを購入することで、企業の活動資金を提供します。一方、預金や貯金は、銀行などの金融機関が仲介する「間接金融」に関連する用語です。
問10	答え 1 日本国内で流通する紙幣を独占的に発行する	日本銀行は、日本銀行券を発行できる唯一の機関です。これにより、国内の通貨量を管理し、経済の安定を図ることができます。硬貨の製造は政府の権限（実際には造幣局が製造）であり、日本銀行が行うものではありません。また、日本銀行は「銀行の銀行」や「政府の銀行」とも呼ばれますが、一般の個人や企業と直接取引することはありません。
問11	答え 1 返済義務のある少額融資を行うことで、借り手の勤労意欲や経営意識を高め、持続的な自立を支援する。	マイクロクレジットは、単なる金銭の寄付（援助）とは異なり、融資という形をとります。借りた資金をもとに家畜を飼ったり露店を開いたりするなどの経済活動を行い、得た利益から返済していくプロセスを通じて、借り手自身が貧困から抜け出す「自立支援」に重点が置かれています。
問12	答え 1 日本銀行が一般の銀行から国債を買い上げ、市場に流通する資金量を増やす。	不況のときには、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活性化させる必要があります。日本銀行が一般の銀行が持っている国債を買い上げることで、その代金が銀行に支払われ、結果として市場に流通する資金量が増加します。これにより、企業や個人が銀行からお金を借りやすくなり、景気を向上させる効果が期待されます。これを買いオペレーションと呼びます。
問13	答え 1 日本で唯一、紙幣（日本銀行券）を発行することができる「発券銀行」としての役割	日本銀行は、日本で唯一の「発券銀行」として、日本銀行券（紙幣）の発行・管理を行っています。これに加え、民間の金融機関から預金を受け入れたり貸し出しを行ったりする「銀行の銀行」としての役割や、国庫金の出し入れや公債の発行など、国の資金を管理する「政府の銀行」としての役割を担っています。一般の個人や企業が日本銀行に口座を作り、預金することはできません。